

■敷地・既存施設面積

(1) 敷地面積	27,034.76 m ²	
(2) 既存緑地面積	3,300.00 m ²	
(3) 既存施設面積	3,437.37 m ²	
1 本館	撤去・建替	968.00 m ²
2 魚病指導総合センター	撤去・建替	284.43 m ²
3 生物学実験棟 (バイオテク実験棟)	撤去・建替	374.00 m ²
4 第一飼育実験棟	撤去・建替	348.72 m ²
5 第二飼育実験棟	現状のまま	768.00 m ²
6 調餌飼料雑器具庫	現状のまま	68.74 m ²
7 上屋棟	現状のまま	60.00 m ²
8 研究資材倉庫	現状のまま	300.00 m ²
9 更衣室・仮眠室	撤去	40.50 m ²
10 倉庫	現状のまま	18.72 m ²
11 急速濾過ポンプ場	撤去・建替	12.65 m ²
12 第1号地下水揚水ポンプ	撤去	14.84 m ²
13 第3号地下水揚水ポンプ	撤去・建替	4.85 m ²
14 湖水揚水ポンプ場	現状のまま	17.30 m ²
15 ポンペ庫	撤去・建替	15.93 m ²
16 油庫	撤去・建替	21.93 m ²
17 自転車置場	撤去・建替	17.00 m ²
18 車庫	撤去・建替	91.82 m ²
19 屋外便所	撤去	9.94 m ²
20 艇庫(敷地外)	現状のまま	32.00 m ²

※既存建物内の、小規模もしくは取扱検討中のものは除く

- 凡 例
- 今回工事では現状のままの予定の建物
 - 今回工事では現状のままの予定の池（水面）
 - 今回工事で解体予定の建物
 - 今回工事で同規模での建替を行う予定の建物
 - 現状の緑地範囲
 - 現状の電柱位置
 - 樹木高さ : 4 m以上 : 4 m以下

・敷地境界線は暫定のため、後日配布の「G-03敷地測量データ」を確定版とすること。
 ・現状緑地面積は、既存図面からの机上算定にて記載。条令上の樹種による換算面積（高木等）は考慮していない。本数（高さ）や位置等は、設計段階で再度調査のこと。
 ・電柱は、提案にあわせて撤去・盛替・残置等を検討すること。





2000年 海産物
世界遺産 水産物
記念碑

海産物水産試験場創立50周年
記念し之を建立
2000年 8月 30日
海産物水産試験場

百周年記念植樹

彦根市の木「橘」



滋賀県水産試験場

当試験場では、琵琶湖漁業の発展および内水面漁業の振興のため、特産の魚介類を豊やしなから有効に利用する「つくり育てる漁業」の確立をめざして、積極的に調査研究に取り組んでいます。

主な業務

- 琵琶湖魚介グループ** ニゴロソウ、ホンモロコ等魚介類の増養殖研究
- 生物資源グループ** アユ等の漁業資源に関する調査研究
- 環境管理グループ** 魚病、漁場環境保全、水産物加工に関する調査研究
- 琵琶湖産分場** アユ等の増養殖研究

沿革

- 明治33年(1900年) 4月 大土郡福富村大字平田(現彦根市平田町)に開設
- 昭和20年(1945年) 2月 彦根市松原町3028に移転
- 昭和46年(1971年) 7月 彦根市八坂町2138-3(現在地)に移転
- 昭和57年(1982年) 3月 魚病指導総合センター、第1飼育実験棟完成
- 昭和62年(1987年) 2月 生物工学実験棟完成
- 平成 3年(1991年) 3月 第2飼育実験棟完成
- 平成 4年(1992年) 3月 漁業調査船第9代「琵琶湖丸」竣工
- 平成12年(2000年) 3月 ふれあい河川整備
- 平成12年(2000年) 4月 創立百周年を迎える
- 琵琶湖産分場を当該に統合し、琵琶湖産分場とする



ニゴロソウ
ふれあいの里
ふれあいの里



ヒクマズ
ふれあいの里
ふれあいの里



セタジミ
ふれあいの里
ふれあいの里



イケチョウガイ
ふれあいの里
ふれあいの里

琵琶湖特産の魚貝類